

## 令和7年度 倉敷中央看護専門学校 自己点検・自己評価結果

### 1. 目的

本校の看護教育の充実に向けて、自己点検・自己評価を行い、学校運営・教育活動の改善・維持・発展の活動を推進する。

### 2. 評価の視点

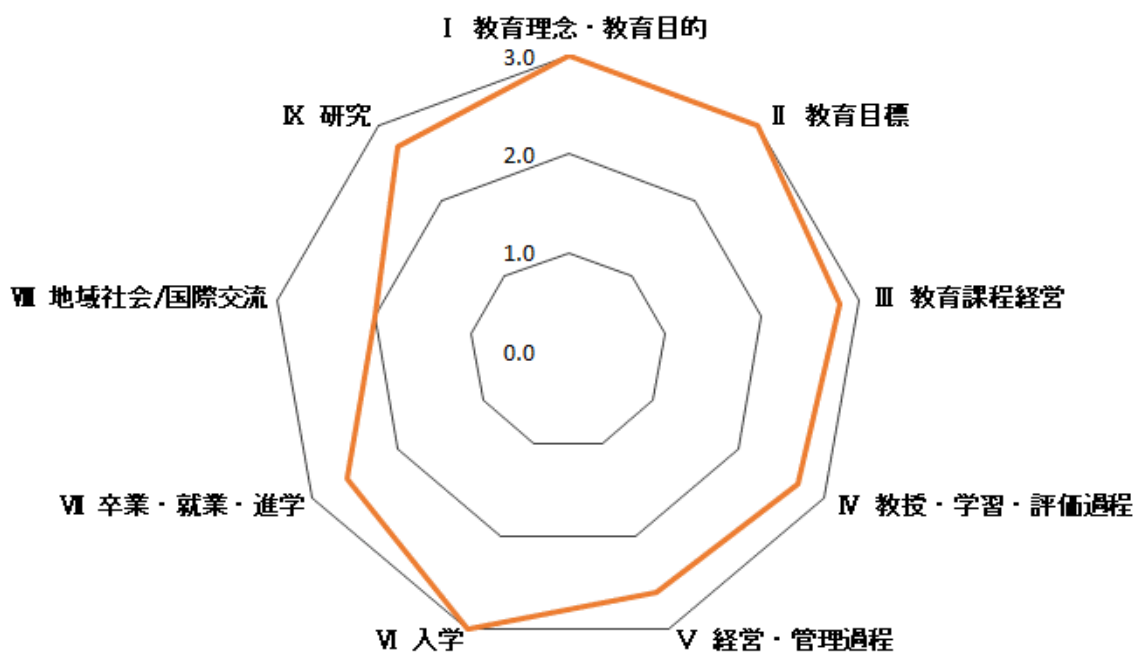
1) 厚生労働省「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を参照し、「評価」は9カテゴリー、「点検」は67項目、125の視点から評価している。

[9カテゴリー]

- I 教育理念・教育目的
- II 教育目標
- III 教育課程経営
- IV 教授・学習・評価過程
- V 経営・管理過程
- VI 入学
- VII 卒業・就業・進学
- VIII 地域社会・国際交流
- IX 研究

### 3. 令和7年度 倉敷中央看護専門学校 自己点検・自己評価結果

- 評価基準 3 (当てはまる)  
2 (やや当てはまる)  
1 (当てはまらない)



カテゴリ	令和6	令和7	概要
I 教育理念 教育目的	3.0	3.0	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院の基本理念である、患者本位の医療・全人医療・高度先進医療を基盤とし、「懇切なる看護」を実践できる看護師の育成を責務としている。生命の尊厳・人間愛を基盤とした豊かな人間性を養うとともに、人々の健康を守り、健やかな生活を支えるために、社会における健康のニーズの多様化に応じ、看護が主体的に実践できる看護師を育成している。
II 教育目標	3.0	3.0	教育目的・教育目標・ディプロマポリシー (DP)・カリキュラムポリシー (CP)・アドミッションポリシー (AP) を策定し、入学時、各年次のガイダンスで学生への浸透を図っている。学年目標を定め、年度末に自己評価を行うことで学生にとって学習の指針になっている。
III 教育課程 経営	2.8	2.8	新カリキュラムの運用は4年目を迎えた。改正のポイントとして①地域・在宅看護論はフィールドワークや新たな実習施設である倉敷中央病院リバーサイド・地域包括支援センター・在宅介護支援センターで行い、退院支援や地域連携等が学べるカリキュラムとなった。②設置主体の強みを活かした「芸術と文化」「人間と社会」の科目では、様々な価値観に触れる機会となっている。③臨床判断能力の育成では段階的・連続的に思考を繰り返せるように構成した。1年次後期の問題解決型学習では基礎知識と実践の繋がりを重視し主体的学習に繋がるよう強化した。また2年次後期の領域別実践演習では、1月から開始となる領域別実習にスムーズにつながられるようなシミュレーション教育を行っている。卒業時学生が印象に残った学習として、文化や価値観の多様性を学ぶ科目、共同学習・シミュレーション教育の意義について意見があった。
IV 教授・学習・ 評価過程	2.7	2.7	しかし、3年次のカリキュラムは1クールの実習日数を12日間で設定しているため全体的に過密となり、各領域別実習の準備・振り返りが丁寧に行えない状況が生じている。また臨地実習では、記録物の多さから記録を書く事が学生の目標と認識されている様子が見られたり、実習評価については学生・指導者・教員間の認識に差異を生じる場面もあった。これらの課題に対して改善に向けた取り組みを行った。学生が看護に興味・関心を持ち、自ら主体的に学べるカリキュラム開発が課題となっている。 教員の教育・研究活動の充実については、担任業務・個別支援等のため時間的余裕のない状況があり、自己研鑽できるよう検討する必要がある。
V 経営・管理 過程	2.5	2.6	「ハラスメント防止に関するガイドライン」を前年度策定し運用したが、学生からの申請は0件であった。また、校内設置の「ご意見箱」では学校生活環境の改善に関する要望はあったが、指導に関する意見はなかった。授業評価・実習評価・学校評価の意見から学生の意見を吸い上げ、安心して学べる学習環境の充実を図っている。 学生の個別支援についてはクラス担任が中心となり支援しているが、学生の多様

			<p>化が進んでいることから、保護者や法人内の担当部署と連携・相談を重ねながら対応することができた。また、経済的支援として倉敷中央病院奨学金については支援を受けやすいように、規定変更を行った。</p> <p>学習環境の充実として、電子テキスト導入に伴う Wi - fi 環境の充実を図った。しかし業務におけるデジタル化についてはシステム上の制約があり、業務改善には至っていないため、現在ある資源を活用しながらシステムを開発し業務改善につなげたい。</p> <p>業務の複雑化・学生支援時間の増加・教職員の異動などにより、時間外の労働時間が多く、タイムリーで効果的な重点課題への対応が困難な状況である。労働環境を整備し生き活きと働ける環境作りは課題となっている。</p>
VI 入学	3.0	3.0	<p>新入生の募集においては定員を確保することができた。募集活動はオープンスクールを年間5回と増やし、従来実施していた1日看護体験2日間、個別進学相談を含めると昨年を上回る来校者があった。オープンスクールでは毎回テーマを変えた看護師の講話を企画しており、看護を実感できる内容として好評である。また、Instagram 等による広報活動の充実を図った。</p> <p>受験生は前年度より19%減であった。受験の早期化と大学化が顕著であり特に一般入学試験では大学との併願者が多い状況であったため、次年度は早期に総合型選抜試験を実施し、入学生確保ができるよう計画した。</p> <p>今後の課題として在校生の協力を得て学校の魅力・学校生活の実際が伝わるような募集活動をしたい。また、対象者を拡大し、社会人や中学生を含む若年層にも積極的にPR活動を行っていく必要がある。</p>
VII 卒業・就業・進学	2.6	2.6	<p>卒業生は41名・卒業率(当該回生入学者に対する卒業者の割合)は95%であり、確実に卒業生を輩出している。</p> <p>就職は法人内病院87%、他院10%、進学0%であった。就職試験が早期化しているため、低学年からキャリアが描けるよう就職ガイダンスの実施・看護師の講話・交流会を実施した。</p> <p>卒後1年目の離職率は12%であり、精神的問題を理由とする者が多い状況があった。学校生活や臨地実習の中で、ストレスを知覚し、必要に応じて他者に相談しながら対応していける行動がとれるよう支援したい。</p> <p>国家試験合格率は97.6%であった。低学年からのガイダンスの継続と夏期休暇集中講座開講など、国家試験対策の強化を行った。今後、学習方法の獲得・学習習慣の確立ができるよう、カリキュラム改善・臨地実習での根拠に基づいた臨床判断能力の育成・個別支援体制づくりが必要である。</p>
VIII 地域社会 国際交流	2.0	2.0	<p>オープンホスピタルや病院災害訓練など法人内のボランティアに参加し、交流・地域貢献を行った。1・2年次地域・在宅看護論のフィールドワークにより地域活動を行っているが、学生が主体的に地域活動に参加することは減少している。学校祭は、保護者や地域の方に公開して行った。今後も地域に開かれた学校として交流の場を広げたい。</p>

IX 研究	2.7	2.7	「A 看護専門学校卒業生の身体的アセスメントにおける思考」について院内看護研究発表会で発表を行った。研究活動を行う上で法人内の研究委員が支援する体制が整っているが、研究活動に取り組む教員の時間確保ができていないことから研究活動への支援体制づくりには課題がある。
-------	-----	-----	--

#### 4. 学校関係者評価委員会(2026年5月12日)開催

##### 1) 学校関係者評価委員

- 土井 英子 様：非常勤講師（担当科目：倫理学）
- 中野 宏子 様：非常勤講師（担当科目：健康行動論）
- 黒田 弓子 様：倉敷中央病院 美和保育園 園長
- 渋江 明美 様：倉敷中央病院 看護本部 看護本部長
- 山川 聡美 様：倉敷中央病院 1棟7階西病棟 看護師長
- 峰見 百世 様：卒業生
- 野上ももこ 様：卒業生

##### 2) 委員会での意見交換と共有内容

- ・主体性や積極性が低下している傾向にあり、発言や質問が少ない。その原因として自分の考えを言語化することに対する課題、自己肯定感・自己効力感の低さがあり、失敗を恐れる傾向にある。「間違っても良い」と安心できる学習環境づくり、小さな成果や気づきを肯定するフィードバック、日常会話を含めた関係性の構築が重要である。
- ・生活感や人とかかわる力が低下しており、授業や実習場面で目が合わない・表情がない・周囲と同調するなど各人の個性を表出しない学生が多い傾向にある。学校行事、オープンスクールや地域とのかかわり等の機会をつくり、役割を任せることによってその能力が発揮されるため、カリキュラムも工夫できると良い。
- ・デジタル教科書になり良い面もあるが、弊害も感じている。国家試験も文章を読み取り、統合する力が求められており、論理的思考を鍛えるためには本や書き物等併用した学習方法の工夫が必要である。
- ・評価については自己評価・他者評価の共通認識が難しい状況があり、ルーブリック評価が有用である。その時にあまり細かくなりすぎると、学生の思考が広がりにくくなるため注意が必要である。
- ・最近の実習生も新人看護師も休む者が多く、精神的にも体力的にも弱い人が増えたと感じる。コロナ禍の影響や、精神的にも自己肯定感が低く今の自分を認められない傾向にある。学生時代が自己の傾向や適性について考えられる期間であると良い。

以上